2023年度　抄録チェックリスト（各項目，いずれか当てはまる枠内に〇をつけてください）		はい	該当せず
倫理的配慮	文献等を引用する際は，少なくとも本文中には著者名と出版年を明記している（例，山岡他，2015）。 ※抄録では末尾の文献欄は省略してもよい。		
	本研究に関して，利益相反はないか，あれば抄録内に明示している。		
	研究協力者（実験参加者・クライエント，患者など）がいる場合，研究内容を説明したうえで，同意を得ている。		
	その同意は，強制のない状況で行われている（例，調査への回答は自由である旨の説明がされている）。		
	協力者本人に能力がないことが懸念された場合，後見人の同意を得ている。		
	研究の性質上，研究内容について事前に十分な説明ができない場合には、終了後に説明を行っている。		
	臨床的研究の場合、結果の公表について研究協力者または後見人から文書で同意を得ている。		
	研究で得られた個人情報は厳重に管理されている。		
	海外の質問票などを翻訳して使用している場合は，原著者の同意を得ている。		
	版権のある質問票などは適切な手続きの上で用いられている。		
	商業や勧誘目的など政治的な問題を含まない。		
全般	書式は，日本心理学会編「執筆・投稿の手引き2022年改訂」，もしくは「執筆・投稿の手引き2015年改訂」（https://psych.or.jp/publication/inst/）」に準拠している。		
	改行すべき場所で改行しており，改行後には適切に一文字下げている。不必要な場所で改行していない。箇条書きになっていない。		
	実証研究の場合は，目的，方法，結果，考察などの見出しがある。		
	理論研究の場合は，目的のほか，その内容に応じて，わかりやすい見出しで整理されている。		
	所定のテンプレートを使用し，フォントや行間などを変更していない。		
タイトル	研究内容が一目でわかるものになっている。		
	書名のように広すぎる題目でない。		
目的	用語の定義と使用方法は正しい。		
	関連する先行研究を適切に説明している		
	目的までの流れ（研究背景，先行研究の問題点，研究の意義など）を適切に書いている。		
	目的（何をどこまで明らかにしようとするのか）を適切に書いている。		
方法	参加者の人数，必要事項[人数，性別，年齢]を記載している。		
	実験計画(独立変数，従属変数，参加者内-参加者間デザイン)を適切に記載している。		
	追試に必要だと思われる重要な情報を記載できている。		
抄録チェックリスト（各項目，いずれか当てはまる枠内に〇をつけてください）		はい	該当せず

結果	結果の値は正確で，転記ミスなどはない。		
	統計的な有意性の有無だけでなく，必要に応じて文中や図表などで代表値の得点の高低，相関の正負や値，その程度などが明示されている。 例1：セッション後の不安に関しては，瞑想群（M = 2.1，SD = 0.4）が，統制群（M = 3.8，SD = 1.1）よりも低かった（p = .046）。 例2：気づきと開放性との間に弱いながらも正の相関が見られた（r = .29，p < .05）。		
考察	必要な結果が簡潔にまとめられている。		
	得られた結果を元に適切に記載できている。		
表	図表は質・量ともに適切であり，モノクロでも判別可能な形で作成されている。		
	すべての図表には通し番号と適切な表題がつけられており，本文から参照されている。		
	図表には適切なタイトルがつけられ，図表単体として完結した内容になっている。		

日本マインドフルネス学会編集委員会作成

著者名：ここにご入力ください。

題目名：ここにご入力ください。

発表部門：右記より1つ選んで残りを消してください。　　実証研究・理論研究

＜発表部門＞

■実証研究

実験や調査などから得られた何らかのエビデンスに基づいた研究。

■理論研究

既存の理論の比較や統合，モデルの構築，重要な課題に関する展望などの文献研究（方法論に関する議論やメタ分析もここに含む）。

※過去の大会のチェックリストとは異なる項目がありますので，必ずこちらの2023年度版をご利用ください。